

有名私立高184校最新偏差値 突然死を見抜く7つの症状

サンデー毎日

10月25日
2009山口那津男・公明党代表
しがみつけない行き方鳩山首相故人献金新疑惑
自民の隠しネタ石原慎太郎
大泣きの内幕中曽根大勲位
新井満ギャルとギャル男の大学生が
ボランティアに汗を流す理由

渋谷シアターTSUTAYAで10月17日の12:10～と15:10～の2回上映。問い合わせはmovie@mediaforyou.tv(メディアフォーユー・里田) 公式サイトhttp://fishimatsu-web.jp/

と知る。そこで、遊び仲間らとボランティア入場料などで資金を集め、2006年8月にブノンベン州に児童数350人の小学校を開校した。

その後、カンボジアには無医村も多いと知るや、次は病院を作ろうと、07年8月に学生20人以上で「スタディーツアー」と称して現地調査に乗り出した。エイズウイルスに感染して生まれた赤ちゃんを恐る恐る抱くギャル学生は、赤ちゃんの笑顔に救われた。頭では分かっていたものの「社会貢献」がどれほど

10月17日、東京・渋谷で一本の映画が上映される。主人公は長く伸ばした茶髪に浅黒く日焼けしたギャルや、ギャル男(「ギャル」そっくりな外見の男)たち。そう聞くと、いかにもシブヤ的な軽い内容と思いがちだが、実は「ボランティア」がテーマなのだ。

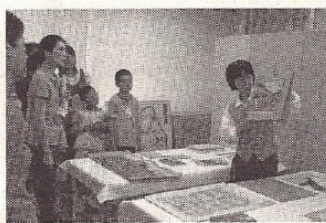
見た目とは裏腹に、彼らは大学生を主体とした医療支援NGO「GRAPHS」のメンバーだ。同団体を設立した医大生の石松宏章さん(26)は当初、「医大生の交流パーティー」などのイベントを主催し、遊んでいた。やがて退屈した頃、「150万円あればカンボジアに学校を建てられる」

現地の人々に感謝されるのかを、彼らは身をもって知った。

映画「マジでガチなボランティア」はそんな彼らを追ったドキュメンタリーだ。里田剛監督は「20歳ぐらいの若者にとつてナンバぐらいの若者することのない退屈な日本では、心の底から感謝されることなんてない。彼らは切実に支援

を求めるカンボジアでそれを知ってしまった。ボランティアの崇高さそのものより、あくまで日本の今の若者たちの姿を描きたかった」と言う。

宏章(講談社文庫)の印税は、全額カンボジアでの小学校や病院の新設に使われる。若者にしかできない社会貢献が中途で消えがちだが、活動が次の世代に引き継がれることを祈りたい。(今一生)

アツという間に過ぎる2時間
知的興奮が眠る図書館の裏側

参加費は無料。今期は来年1、3月に若干の余裕がある。問い合わせは同館☎03-3442-8451

いのかもしれません。でも約16万冊の蔵書を持ち、出版物以外にも、さまざまなメディアやデータをそろえた、情報の宝庫なんです。その機能を有効に利用していただくために、まず図書館を身近に感じてもらうと思いました」(同館・大橋綾子さん)

改装工事のため少し長めのブランクとなったが、再開を待ち望んでいたように参加申し込みが集まっているという。ツアーは1グループ10人程度で、普段は入ることのできない、図書館の舞台裏を見学してゆく。たとえば特別文庫室(写真)では、古文書や古地図、錦絵などを見ながら、司書の

説明を聞く。今なら大河ドラマの直江兼続ゆかりの資料を選ぶなど、タイムリーな配慮で興味を深めてくれる。視覚障害者サービス室の充実ぶりも新鮮な驚きだ。IT化された点字翻訳、テープからCD-ROMへの音読データの移行といった最先端技術が、原点である対面音読をサポートしているのがわかる。

参加者の集中心力が一段とアップするのが、資料保全室だ。ここでは傷んだ本の修復作業が行われている。和紙を小さくちぎって、微細な虫食いを埋めていく根気のいる作業。見ているほうも、思わず息を詰めてしまう。そのほかにも地下に広がる広大な書庫、電動式の巨大な書架など、見所は満載だ。またどの部署でも、説明にあたる係員の方々の、本に対する愛情が感じられて、温かい気持ちになる。